

ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2023年12月19日時点)

➤ **ウクライナ軍**は、東部(ドネツク州)及び南部(ザポリヅジャ州)での攻勢が停滞する中、ヘルソン正面やクリミア半島方面への攻撃を継続する一方、**露軍**は、東部で攻勢を強めるとともに、各地への攻撃を継続している模様

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

露軍: 死者約12万人、負傷者約18万人(NYT8月18日)

: 死者約15万人(「ウ」軍総司令官11月1日)

「ウ」軍: 死者約7万人、負傷者約12万人(NYT8月18日)

: 死傷者推定10万人以上(クリストファーセン「ノ」軍参謀総長1月22日)

「ウ」市民: 死者10,000人以上、負傷者1万8,000人以上(UN11月21日)

- クピャンスク正面に展開する「ウ」軍旅団報道官は、同正面において、露軍が従来活用していた「ランセット」自爆型無人機の代わりに、**より効果的な徘徊型自爆用無人機**を使用し始めている旨指摘(12月16日)
- 「ウ」軍指揮官は、「ウ」軍が砲弾不足に直面しており、特に**122mm及び152mm砲弾が全戦線で不足**していると発言。また、外国からの支援不足が原因でいくつかの作戦を縮小せざるをえなくなったと指摘(12月18日)
- 「ウ」国防省情報総局報道官は、[24年3月実施予定の]露大統領選に向けてプーチン大統領が**アウディウカ市制圧を望んでいる**とした上で、**アウディウカ市南部の工場地帯は露軍に占領される可能性が高い**と発言(12月18日)

- 米上下両院は、2024年会計年度国防費の大枠を定める国防授權法を可決。国防政策に関連した事業のうち、「ウ」支援関連予算として、「ウ」**安全保障支援イニシアチブ(USAI)**(2024及び2025会計年度) **3億ドル(約430億円)**を計上(12月14日)
- EU首脳会議において、2024年から4年間で**総額500億ユーロ(約8兆円)**に上る対「ウ」**長期財政支援**の採決が行われるも、**ハンガリーの拒否権発動により否決**(12月14日)

- プーチン大統領は、モスクワで開かれた「国民との直接対話」において、「敵[「ウ」軍]は**大規模反転攻勢を発表したが、[戦況は]何も変わらなかった**」、「[「ウ」軍は、]最後の試みとして**ドニプロ川左岸まで突破してクリミアへの足掛かりを築くことを試みたが、何も変わらなかった**」、「端的に言えば、彼らが無配慮に人を送り続けることは、我々を利する。残念ながらこれが武力闘争の論理だが、彼ら[「ウ」兵]にとっては悲劇だ」と発言。また、露軍兵力について、既に48万6,000人の**志願契約兵**が採用され、**年末までには50万人**に上るとの見通しを示した上で、**追加動員の必要はない旨発言**(12月14日)



- 「ウ」空軍は、弾種未特定の**弾道ミサイル×10発**がキーウ市方面に飛来したものの、**全弾迎撃に成功**したと発表(12月13日)
- 「ウ」空軍は、**露軍「シャヘド」無人機×9機**がオデーサ州に、7機がヘルソン州に飛来したものの、**16機全機撃墜**した旨発表(12月17日)
- 「ウ」空軍は、**露軍「シャヘド」無人機×5機**がミコライウ、ドニプロ、ヴィンニツァ、フメリニツキー各州に飛来したものの、**全機撃墜**した旨発表(12月18日)

- 主要都市(下線は州都)
- ☀ 露軍による攻撃が報じられた主な地点(接触線以外)
- 露軍が占領した地点
- ☀ 侵略開始後に露軍が占領し保持している地域
- ☀ ウクライナ軍が奪還した地域

国土院標準地図を加工

資料源: ウクライナ政府機関ウェブサイト、ロシア大統領府ウェブサイト、ISW等